

報告事項

平成23年度県立学校第三者評価の結果について

平成23年度県立学校第三者評価の結果について、別紙のとおり報告します。

平成24年3月17日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成23年度鳥取県立学校第三者評価の実施について

平成24年3月17日
 高等学校課
 特別支援教育課

1 実施の方針

- (1) 平成22年度から、各年度毎に県立学校8校（高等学校6、特別支援学校2）において第三者評価を実施し、4年間で一巡（鳥取聾学校ひまわり分校は1校と考える。）する。
- (2) 平成20年度試行実施校（倉東、境総合、鳥盲）及び、平成21年度試行実施校（八頭、米子、倉養）については、平成25年度に実施する。

2 平成23年度第三者評価実施状況

- (1) 評価対象校の決定（5月2日）
 鳥取西、鳥取商業、鳥取中央育英、米子東、米子工業、米子白鳳
 鳥取聾（ひまわり分校）、白兔養護の8校
- (2) 第1回第三者評価委員会（7月4日、中部総合事務所）
 - ア 評価委員の研修の実施
 - イ 評価チームの編成、担当校の決定
 - ウ 評価項目・評価基準・評価方法等の確認
- (3) 学校訪問（8月～11月、各評価対象校）
 各校2日間の学校訪問による授業・施設見学及び聞き取りを実施
- (4) 第2回第三者評価委員会（2月22日、中部総合事務所）
 - ア 評価の決定
 - イ 平成24年度第三者評価のあり方の協議
- (5) 評価書の交付（3月2日） … 資料
- (6) 評価対象校による改善計画書の提出（3月末）

3 平成23年度の評価委員（敬称略）

氏名	役職等
山岸 正明	鳥取大学名誉教授、セコム山陰（株）鳥取営業所顧問
秦野 諭示	鳥取環境大学情報システム学科長・教授
西田 英樹	鳥取大学総合メディア基盤センター長・教授
岡野 幸夫	鳥取短期大学国際文化交流学科准教授
西原 定代	（株）協和製作所鳥取工場アドバイザー
内田 八孝	ダイヤモンド電機（株）総務部鳥取総務課課長
柳谷 由里	学校法人かいけ幼稚園理事長
岩垣 和久	前倉吉西中学校長
荒益 正信	元中部教育局長、元教育次長
油野 利博	鳥取大学名誉教授、元鳥取大学附属学校部長、鳥取県体育協会会長
大家 祐子	（株）プレマスペース代表取締役社長
出脇 典子	元県教育委員会事務局障害児教育室長、元鳥取養護学校教頭

平成23年度 鳥取西高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

鳥取藩校「尚徳館」を源とし長い歴史を有する鳥取西高等学校では、「文武併進」の精神を受け継ぎ、次代を担う使命を自覚して、社会の発展・進歩に貢献する人材を育成することを目指している。校長をはじめとする教職員は、その目標に沿って教育にあたり、進学面のみならず部活動面においても多くの成果をあげている。

鳥取西高等学校は、知・徳・体の調和のとれた人格の育成を基本に置き、時代の変化に順応しつつ、生徒の能力開発を行うことを中長期ビジョンとしている。そしてそのビジョンを具現化すべく、5つの重点目標、即ち①学力向上と進路実現のための施策の徹底、②「今を社会的に生きる」ための生活指導の推進、③スポーツ活動と文化活動の更なる充実、④幅の広い教養を身につけることを目指した生徒の意識向上、⑤本校の新しいあり方の構築、を展開して、教職員が一体となった教育活動を進めており、良好な状態にあると言える。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 学力付与と進路指導は最も期待される課題であり、それに応えようとする取り組みと努力は、評価できる。例えば、本来の授業に加えて補習や個別指導を行うなどの取り組み、習熟度に合わせた授業、年5回の個人面接の実施、充実した内容の「進路便り」などが挙げられる。
- ② 学力付与と並行して、品位や教養を備えた人格に育てるための取り組みが工夫されている。例えば、講演会「科学への誘い」（平成23年度からは理系だけでなく文系の学問・研究の現状について理解を深めるために「学問への誘い」として拡充）の開催、職業別講演会・進路講演会の実施、等である。前記①の取り組みとのバランスを保ちながら、次代を担う人格形成に努めている。
- ③ 教員全員が公開授業を行い、研鑽を積むことによって、自らの授業力向上に努めている。また、教員間の縦の関係、即ち先輩教員と後輩教員の関係も良好で、同じ目標に向かって取り組む体制が確立されている。さらに、市立北中学校との伝統的交流の中で、特に数学研究会の継続は相互に良い効果をもたらしている。
- ④ 一人当たりの図書貸出し冊数が年々増加し、平成22年度には前年度比24%増となっている。教科との連携や新刊購入に起因しているが、この傾向が続くことを期待する。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 現役合格率の向上と難関大学合格者数の増大という二つの要求を同時に満たすことは大きな困難が伴うものと予想されるが、周囲からの期待と受け止め、一層の効果的取り組みを期待する。
- ② 生徒への授業アンケート及び保護者へのアンケートが定期的に行われ、膨大なデータが集計・分析されているが、分析結果の活用が不十分と思われる。学校が一体となって、生徒・保護者に直接的・間接的にフィードバックするように取り組むことが必要である。
- ③ 安全計画、防災計画について不十分な点が多い。早急な改善を望む。
なお、校舎の建替え・移転問題の影響で、耐震化対策の遅れが懸念される。全生徒の安全に関わる重要事項であるので、教育委員会と高校とが連携して、早急に対策を講じられたい。

平成23年度 鳥取商業高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

教育に対する各教員の情熱と熱心な生徒指導の様子から、「鳥商教育のめざす姿」を学校全体で共有し、各教員が一丸となって取り組む姿や雰囲気十分に感じられ、生徒も落ち着き、学習や学校の諸活動に熱心に取り組んでいる。

今後は、これから進んで行く少子化の中で様々な問題に対応できる力を持った社会人を育成することを目指して生徒一人ひとりへの指導を充実させるとともに、安易な妥協や自己満足感に陥ることなく社会の動きの変化に対応したスピード感のある変革によって、全国に通用する教育内容へとレベルアップが図られるよう、学校運営の更なる改善を進めていくことが求められる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 鳥取商業高等学校100年の伝統に育まれながら、生徒が穏やかな雰囲気の中で学生生活を送っており、めざす人物像「地域の産業経済界をリードし、活躍する人（職場の人に信頼され、情熱を持って仕事に励む人）」が、具現化されつつある。
- ② 細かい進路指導対応が数多くなされており、就職率100%を目指して成果を上げている。
- ③ 教職員全体で生徒指導に取り組む体制が出来ており、共通の理解のもとに実践を行おうとしている。その結果、問題行動も少なく、挨拶・服装・時間厳守の規律も守られ、注意や指導を受けた生徒も素直に聞く姿勢が見られる。
- ④ 「鳥商デパート」は、高校生活の集大成として位置づけられ、生徒自らの企画で仕入から販売を行うことで実際の商業活動が体験できるだけでなく、外部人材との連携の中で、現実の社会生活の厳しさやそれを克服していく喜びなどを知る貴重な機会となっている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 生徒の要求に対応した授業改善が求められており、教師のスキルアップを図るために数値目標を設定し、生徒による授業評価を活用することが必要である。
- ② 学習環境面としての施設設備について、早急な耐震対応・津波対応、空き教室の有効活用などの課題もあり、その解決に向けて、教育委員会と密接に連携をとりながら整備を進めていく必要がある。
- ③ 学校課題の解決に向けた校内研修・校外研修のあり方について再検討するとともに、研修実施計画や研修記録の保存、全職員への還元、活用について検証が必要である。
- ④ 危機管理意識は問題が少ないとマンネリ化になる。想定外の事象にも柔軟に対処出来るよう、訓練や文書・情報の取り扱いの責任を明確にして常に注意喚起・点検をすることを望む。
- ⑤ 保護者から「情報発信が少ない」との指摘があり、様々な手段を講じて保護者への働きかけを積極的に行うことが必要である。また、情報公開の手段としてのホームページや地元マスコミをタイムリーに活用して情報公開の枠を広げ、保護者・地域の信頼をさらに高めることも必要である。

平成23年度 鳥取中央育英高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

鳥取中央育英高校は1906年から続く長い歴史をもち、「克己」を校訓として継承しながら今日の姿がある。「克己」に基づく5つの学校ビジョン、即ち①高い志と自ら学ぶ力、②確かな学力と公共の精神、③自らを律する力と他を思いやる心、④率先して行う勇気と協力して成し遂げる智恵、⑤健やかな体と感動する心、を目標にして教育が行われている。このビジョンは、毛筆による大きな書として学校の中心となる廊下に掲げられており、目標を見失わないようにする学校の姿勢が分かる。

学習と部活動とを両輪として、健全な人間育成を行いたいという学校の志は、良い形となって具現化されており、学校は良い状態にあると言ってよい。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 部活動は100%に近い加入率を維持し、良い伝統の下で、水球、陸上、野球を初めとする全国レベルの部活動を中心に、互いに刺激し合いながら積極的に活動をしている。また、週に1日は休養日を設けるなど、生徒の健康面への配慮も適切である。
- ② 進路指導に特化した約50頁から成る冊子「サクセスタイム」を学年毎に作成し、全員に配布している。進学志望にも就職志望にも対応できる内容できめ細かく、完成度が高く、生徒にとって有用である。本冊子は、「10年後の私」を考えて記述させたり、「私のサクセスマップ」を用いて卒業後の目標を具体的に考えさせたりといった工夫が施され、自身の将来をしっかりと見つめさせるように構成されていて、自己実現のための導き書としての役割を果たしている。
- ③ 大栄中学校並びに大栄小学校と連携した「レインボープラン」により、部活動や授業、体験活動での協力・協働を行っており、地域の教育にとって優れた企画・実践と言える。
- ④ 学校内の情報の発信が非常に優れている。例えば、新聞部が発行する新聞は質量共に優れ、全国トップレベルを維持している。また、ホームページは、管理者のチェックを受けながら毎日のように更新され、かつ極めて高いアクセス数を得ている。
- ⑤ 環境配慮活動については、TEASⅡ種取得4年目という実績がある。生徒の中には、ゴミの減量化と電気等の省エネの考え方が十分根付いていて、学校の継続的努力が評価できる。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 就職に関する進路指導が担当教員任せになっている点が否めない。就職希望者の増加にも対応できるよう、キャリアアドバイザーの配置等を検討する必要がある。
- ② 図書館は使い易く機能的に整備されているが、貸出し数が多いとは言えない。教科と連携するなどして、生徒が書籍に触れる機会を増やす取り組みが必要である。
- ③ 学校安全計画を早急に整備し、帰宅困難などへの対応も明記されたい。また、学校保健については、学校が一体となった組織的取り組みを望む。
- ④ 地域アンケートが未実施の状態である。学校が「地域の中央育英」としてより一層活性化するために、地域の声を聴くことを期待するし、その手段としてのアンケートの実施を要望する。

平成23年度 米子東高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

校長は、「21世紀を担うリーダーの育成」を学校ビジョンに掲げ、教育目標実現にリーダーシップを発揮し、教職員は授業研究や研修・研究活動に積極的に取り組み、組織としての「米東の教育」充実への意識は高い。教育目標達成に向けた事業や活動は、その成果と課題を検証し改善を図っている。本年度より「習熟度別クラス編成」の導入、生命科学コースの「オリエンテーション合宿」、生命科学に関する体験的な「探究的学習」、県内・近県高校の希望生徒も対象にした「科学を創造する人財育成事業」（以下「人財育成事業」という。）など特色ある取り組みを推進している。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 教師の指導力の向上と授業改善に計画的、組織的に取り組み、習熟度別クラス編成や習熟度別授業による指導の個別化を図り、また、放課後や長期休業中の講習、1学年学習会の開催など学力向上に力を注いでいる。定時制は生徒の多様な学習歴をふまえ習熟度別クラス編成や少人数指導を実施している。
- ② 全日制課程の総合的な学習の時間は、社会人講師の活用も図り自己の在り方生き方の探求活動を実施するとともに、生命科学コースでは言語技術教育も位置づけた創意あるカリキュラムを編成し指導している。
- ③ 学校図書館を全校的機関として分掌組織に図書部を位置づけ、学年・教科・分掌と連携し、生徒及び教職員に適切な図書館資料を提供できる体制をとっている。
- ④ 全日制・定時制課程とも、ホームルーム活動は各内容項目を指導計画に適切に位置づけ、担任は生徒理解に基づく望ましい学級集団づくりに努めている。
- ⑤ 全日制課程においては、進路指導は教職員の協力的な指導体制で、現役合格者増加をめざした学力向上の取り組みと適切な進路指導により、進路状況は数値目標を達成している。生徒・保護者とも大多数が担任の進路指導は適切であると捉えている。
- ⑥ 全日制・定時制課程とも教職員の共通理解のもと規範意識や社会性の育成、基本的生活習慣の確立に向けた指導を継続しており、問題行動はほとんどなく、遅刻・欠席も減少している。
- ⑦ 全日制・定時制課程とも特別支援教育の体制は整備されている。「特別な支援を必要とする生徒」の支援計画は作成され、「気になる生徒」についても特別な支援の対象として取り組んでいる。
- ⑧ 全日制課程での生徒・保護者「学校満足度アンケート」の実施は学校運営評価の有効な取り組みである。
- ⑨ 学校関係者評価委員会は客観的な学校評価、建設的な指摘・提言を行い、習熟度別クラス編成の導入や人財育成事業の充実として具現化している。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 学校経営に学校図書館活用教育が位置づけられている。今後学校図書館の学習情報センター・教材センターの機能の整備を図り、また学校図書館経営計画を作成することが必要である。
- ② 定時制課程では社会情勢の影響もあり、厳しい進路状況にある。キャリア教育として総合的な学習の時間で職業的（進路）発達課題を内容とするカリキュラムの編成を検討するなど、新たな改善の取り組みが求められる。また、全日制・定時制課程とも進路指導の全体計画の作成が必要である。
- ③ 生徒指導における生徒指導主事の責務が生活指導に特化されており、分掌組織の再編とともに、生徒指導全体計画の作成が必要である。
- ④ 学校評価については、全日制課程の教科別の生徒授業評価の実施を期待する。
- ⑤ 全日制課程における学校安全計画の整備、全日制課程と定時制課程で危機管理マニュアルの内容を統一することが求められる。

平成 23 年度 米子工業高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

平成 23 年度には校舎が新設され、新たな学校運営がスタートしている。校舎や設備はすばらしく、恵まれた環境の中で学力向上を目指してさまざまな取り組みがなされている。また、教員一人ひとりの教育に対する情熱を感じることができるので、今後学校全体の活力を高め、教育実践における成果を期待したい。

一方、「地域社会・産業界に貢献する人材育成」をミッションとして掲げ、学校全体で共有して取り組もうとしているが、不十分な面が見受けられる。各教員が趣旨を十分に理解し、教育実践に反映出来るような環境作りを行っていくことが重要だと思われる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 全国的に誇れる優れた施設・設備が整備されている。今後も教育委員会や関係機関との連携を密に取り合い、効率の良い活用・維持管理を継続していくことが必要である。今後、これらの施設設備を各教員の研修によるスキルアップや不断の創意工夫によって有効に活用し、教育成果を上げて全国レベルの先進的な工業高校を目指すことが期待される。
- ② 工業高校として伝統にはぐくまれ、高い学力やすぐれた運動能力を持つ優秀な生徒をたくさん輩出してきた。近年、基礎学力の低下や、運動能力の低下による部活動のあり方が課題となっているが、そのような実態の中で、生徒一人ひとりに対応した指導方法の工夫やより高い教育内容を目指す取り組みにより、個性に応じた能力の伸張が期待される。
- ③ インターンシップの取り組みにおいてはその重要性を認識し、受入事業所の確保や手引きの作成、事前指導に積極的に取り組んでいる。そして、この取り組みを行う中で地域との交流・連携を密にし、鳥取県西部・中海圏の中核的な工業高校としてさらに優秀な人材を数多く育て上げていくことを期待する。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 生徒による授業評価を学校全体で適切に実施し、その結果を十分に生かして、指導内容・指導技術・指導体制のスパイラルアップを図る必要がある。
- ② 環境を大切にする人材育成をめざし、5Sの徹底、環境宣言の計画などに取り組んでいるが、生徒・教職員ともにその意識に不十分な面が見られる。指導計画を見直すとともに、生徒や教職員が意欲的に取り組んでいる状況が確認できるようにして、学校全体の意識向上を図る必要がある。また、環境活動についてはものづくりの観点から生徒・教職員が一体となって考えていくことも必要である。
- ③ 校務分掌や主任体制は整然と整えられているが、学校の重点目標項目を達成するための組織運営が各分掌の活動に任されており、指導全体における各分掌の役割や教職員の連携などがはっきり示されていない。そのため、生徒への指導で不十分な面が見られる。今一度教職員の共通認識を図り、生徒の活動や保護者・地域との連携も含めた学校全体としての指導体制を整える必要がある。
- ④ 保護者への情報発信が不十分であり、学校の様子がよく伝わらないという保護者の声がある。考えられる様々な手段を講じて、学校情報の発信を行う必要がある。

平成23年度 米子白鳳高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

米子白鳳高等学校は午前部、午後部からなる昼間定時制課程（総合学科）と通信制課程（普通学科）を併設する高等学校である。本年度、新たに学校ビジョンとして「めざす学校像」、「めざす生徒像」を策定し、中長期目標を設定し、その実現に向けた学校の前向きな姿勢は評価できる。教職員は生徒に寄り添い教育活動に真摯に取り組んでおり、組織としての学校の力を高めていくことを期待する。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 多様な学習歴による学力差などをふまえ、定時制・通信制課程とも1年次生の少人数指導や学び直しの指導など基礎的な学力の向上に取り組み、授業は学習プリントや視聴覚機器等の活用、学習進度への配慮など個に応じた指導に努めている。
- ② 定時制課程の芸術・農業の科目や総合的な学習の時間は積極的に外部人材を活用し、ものづくり体験や伝統文化の伝承活動、進路学習など特色ある教育活動を展開している。
- ③ 部活動の加入者は少ないが、郷土芸能部は地域の保存会の支援のもと、海外や国内での公演や交流、全国高等学校総合文化祭出場など幅広い活動を展開している。
- ④ 定時制・通信制課程とも生徒の進路意識の向上と厳しい進路実態の改善に向け、進路志望の把握や進路相談の充実、進路情報の収集・提供のための新規事業の推進など進路指導の充実を図っている。
- ⑤ 定時制・通信制課程とも教育相談体制は整備され、相談は複数のチャンネルで、解決に向けてはスクールカウンセラーや医療等専門機関を積極的に活用し、生徒指導部との連携も図られている。
- ⑥ 生徒の出席や履修状況等の早期把握と情報の共有化の体制は整備され、各種文書や個人情報管理の管理・取り扱いは適正に行われ、生徒に対しての措置も考慮されている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 定時制・通信制課程とも授業研究週間を実施しているが、授業展開や指導法の工夫改善についての教職員の共通認識を図り、成果ある計画的、組織的な授業改善の取り組みにしていくことが必要である。
- ② 定時制・通信制課程とも進路指導計画に基づき指導しているが、学校教育活動全体を通じて計画的、組織的、継続的に進めるための進路指導全体計画の策定が必要である。
- ③ 定時制・通信制課程とも問題行動や教育相談内容については、個々の問題やケースについての手順書を作成し全教職員が対応できるシステムの充実が期待される。
- ④ 定時制・通信制課程とも生徒指導の各部面の指導はなされているが、生徒指導は教育課程の内外のすべてにわたって働く機能としての教育活動であり、生徒の実態や課題をふまえ自己指導能力の育成をめざす生徒指導全体計画の策定が必要である。
- ⑤ 教職員は個々の生徒に対応した教育活動に真摯に取り組んでいるが、教育目標実現のためには教職員の学校経営への参画意識、コミットメントを高め、ミドルアップダウン型の組織づくりによる組織運営の活性化を図っていくことが重要である。
- ⑥ 自己評価に関して、各分掌・学年等で自己評価されているが、教職員の「自己評価」に対する意識の向上が望まれる。教職員に対し、PDCAをスパイラルアップさせる方策を示し、成果に繋げる学校全体としての姿勢を示すことが期待される。
- ⑦ 生徒の授業アンケートは実施されているが、教師の指導法等に関する評価項目による教科別授業評価の実施とPDCAサイクルへの取り組みが必要である。
- ⑧ 保護者の学校教育への関心を高め、PTA活動や諸行事への参加と協力を進めるため保護者との連携、協働体制づくりの方策を見出していく努力がさらに求められる。

平成23年度 鳥取聾学校ひまわり分校 第三者評価 評価書

【講評】

「聴覚障がい児一人ひとりの教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、豊かな心とたくましく生きる力を育てる」という中長期目標の達成に向けて、幼稚園から中学部までの12年間において、幼児児童生徒の実態及び発達段階に応じた指導を積み重ね、一貫性のある取り組みが行われていることが感じられる。

地域支援部（乳幼児教育相談）・幼稚園から中学部までの幅広い年齢構成に加え、障がいの程度が多様な幼児児童生徒一人ひとりの実態に応じて、視覚教材等を活用した授業づくりや教室環境の整備が行われていることは評価できる。今後、さらに保護者や関係機関、地域等と連携を図りながら、現在成果をあげている点はさらなる充実を、課題については改善に向けて積極的に取り組んでいただきたい。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 児童生徒が評価シートに毎時間記入して授業を振り返るとともに、教師はその評価シートや日々の授業記録を活用し、授業改善に取り組んでいる。
- ② 「学校は安心して楽しく学ぶところ」という経営方針に沿った学校づくりが展開されており、幼児児童生徒と担任とのしっかりとつながりをもとに、一人ひとりの実態に応じた日々の指導ができています。
- ③ 養護教諭を中心に、幼児児童生徒の発達段階に応じた教材等の工夫をして、自己健康管理能力の向上や基本的生活習慣の確立のための取り組みがなされている。
- ④ 各種たよりをはじめ、ホームページの活用等、情報発信に努めるとともに、アンケートや計画的な懇談を通して保護者や地域住民からの直接の声を受け止め、学校行事等の改善を図っている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① キャリア教育全体計画を活用し、学級活動や総合的な学習の時間等を通して、中学部卒業後の進路先の決定に向けた進路指導に取り組んでいる。今後は、高等学校（高等部）卒業後の社会参加と自立までを見通した計画を作成していくことが望まれる。
- ② 学習内容の定着を意識し、幼児児童生徒にじっくり向き合う姿勢は素晴らしいが、少人数であるために学習が受け身になりやすい。幼児児童生徒が主体的に学習しようとする意欲や態度を育てる授業の形態や教材の工夫が必要と考える。
- ③ 地域支援部・幼稚園と小学部・中学部の職員室は離れているが、「子どもを語る会」のみならず、教職員が日々の幼児児童生徒の情報交換ができるよう、さらなる工夫を期待する。
- ④ 学校関係者評価委員会で指摘された「専門性の向上」「センター的機能の充実」「キャリア教育の推進」を、学校自己評価における指導目標等において反映させている。「幼児児童生徒の経験の幅の拡充」「情報発信」等においても、学部・分掌の指導目標に反映させるとともに、全教職員が共通理解できるようにすることが求められる。

平成23年度 白兔養護学校 第三者評価 評価書

【講評】

全教職員・児童生徒が、「白兔のあいうえお」（「**あ**いさつを交わし、みんななかよく」等「めざす児童生徒の姿」を児童生徒にわかりやすく示したもの）を合言葉に、小学部から高等部までの12年間において、児童生徒の発達段階に応じた指導が積み重ねられている。また、児童生徒の実態把握のもと、一人ひとりの実態に応じた教育活動に努めていることが感じられる。

小学部から高等部まで幅広い年齢であり、多様な障がいのある児童生徒が在籍している。このような状況の中、「専門性振り返りシート」の活用やポイント制による研修の充実等、特別支援学校の教職員としての資質向上に向けた取り組みが、児童生徒への日々の指導・支援に生かされている。また、個別の指導計画等に基づいて計画的に学習を進めていることや卒業後を見据え、個別の教育支援計画を活用しながら、必要な支援について関係機関と連携した取り組みが進んでいる。今後、さらに保護者や関係機関、地域等との連携を図りながら、現在成果をあげている点はさらなる充実を、課題については改善に向けて積極的に取り組んでいただきたい。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 教育目標等の達成に向けて、中長期目標の見直しを行ったり、「白兔のあいうえお」等、目標をわかりやすく教職員や児童生徒に提示したりしている。また、校長だよりの発行や管理職と教職員・保護者との積極的な面談等を通して、教職員や保護者に必要な情報の発信体制も整えられている。
- ② 学部・分掌内の業務推進のために、校内人材の積極的な活用を進め、組織の活性化を図ることで、分掌が適切に機能している。
- ③ 特別支援教育に関わる専門性や指導力の向上を図るために、「専門性振り返りシート」を活用したり、研修のポイント制を取り入れたりするなど、特別支援学校における教員の専門性の向上に向けた取り組みの工夫が見られる。
- ④ 「交流及び共同学習の手引き」の作成・活用等、交流及び共同学習の円滑な実施と改善に向けた体制が整備されている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 児童生徒の実態を踏まえ、個に応じた指導がさらに適切に計画・実施されるために、関係者の話し合いや授業シートの有効活用によって指導者の力量が向上することを期待する。
- ② キャリア教育発達段階内容表に基づいて年間指導計画や個別の指導計画を作成し、小学部から高等部まで段階的・系統的指導に取り組んでいる。教職員全体が進路指導主事や就労サポーター等の進路担当者と連携を図りながら、さらに主体的に進路指導に取り組む姿勢を高めてほしい。
- ③ 自己評価表の目標設定は具体的で、将来像がイメージしやすいが、教職員に対して周知徹底することが大切と考える。また、地域のとらえ方を学校周辺や居住地周辺だけでなく、もっと広くとらえ、連携の幅を広げていくことが望まれる。
- ④ 保護者アンケートの結果にはどの項目にも「わからない」という回答がある。評価のねらいを明確にし、情報提供は、保護者が「知る」から「理解する」に力点をおく必要があると考える。